

生涯現役

いきいき元気

吉成 大治さん
(安良川 79歳)



“豆腐をつくり続けて62年”

昭和27年から60年以上にわたり安良川で豆腐作りをしている吉成大治さん。「元気なうちは仕事を続けたい」と、今日も家業に精を出しています。

石うすから豆すり機に、鍋からボイラーに変わるなど作業の一部が機械化しても、豆腐作りは昔から変わらず朝が早い。午前4時から作業を始め、水に浸しておいた大豆を細かくし、ボイラーで熱する。これを絞り機にかけ大豆の汁とおからに分け、ニガリを加え固めた後、水切りしたら完成。その後、午前中のうちに大治さんが配達に出かけています。「昔は50件

ほどのお得意様がいて、自転車で配達していました。大変だったけど良い時代でした」その間、奥さんの美枝子さんが鍋を洗ったり、翌日の大豆の仕込みをするなど文字通り「夫婦二人三脚」で店を営んでいます。「今も学校給食に使ってもらっています。子ども達が食べるものだからこそ、安全と安心にこだわっています」と大治さん。

元気の秘訣を尋ねると「嫌なことがあっても、内に溜めないことが大切。それに妻の協力で笑顔が元気の源です」と生き生きとした笑顔で話してくれました。

ロシアでも「赤水図」を参考に日本地図を作製

今年の一月三日(月)の山陰中央新報(本社・鳥取県松江市)山陰総合欄に、江戸時代後期に日本周辺を航海したロシア海軍提督・クルーゼンシュテルン(一七七〇～一八四六)が一八二七年に作製した日本地図が、島根県内の地理研究者の間で話題になっているとの記事が掲載された。隠岐諸島の地名が三〇カ所以上も記載されているのが特徴。ロシアが鎖国下の日本に通商を求めたため、日本海の沿岸部を詳しく探っていたことがうかがえる。隠岐の地名を詳細に記録した外国人の地図は、ドイツ人医師・シーボルトの「日本図」(一八四〇)が先駆け

と考えられているが、再考の余地がありそうだ。

地名の取り上げ方は、水戸藩の地理学者 長久保赤水(一七一七～一八〇二)が作製した『改正日本輿地路程全図』(一七七九年初版)に似ているため、参考にした可能性もあるという。

杉原隆・前県竹島問題研究会顧問は「隠岐の地名を詳細に記した地図が、シーボルトの一〇年以上前にロシアで作製されていたことは驚きだ。日本の港や地名の情報を収集し、地図に反映させたのではないかと話し、さらなる研究の価値があると指摘している」と掲載されている。

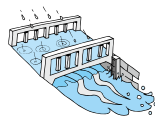
竹島問題研究会委員のクルーゼンシュテルンの日本地図の調査では、長久保赤水の初版の日本地図と各地の地名がピッタリと一致したという事である。さらに、この事は隠岐地方だけでなく、もつと広域にも確認されているという。

シーボルト事件は一八二八年、その翌年に彼は国外追放となつている。今後の調査を待たなければならぬが、シーボルト以前に国交のないロシアで赤水図を参考に日本地図が作製されていたという事実は、驚きの大発見である。



防災コーナー

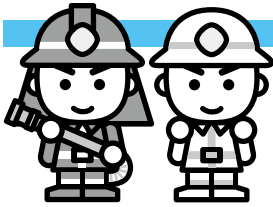
集中豪雨やゲリラ豪雨から身を守りましょう



集中豪雨は、短時間のうちに狭い地域に集中して降る豪雨のことで、梅雨の終わり頃に起こります。狭い地域に限られ突発的に降るため、その予測は現状困難です。気象情報や起きている現象から危険レベルを判断し、行動することが重要になってきます。

- △川の近くでは、まわりの空が真っ黒になったらすぐに避難する
- △冷たい風が吹き出したら注意する
- △雷鳴や稲妻を確認したら建物内へ避難する
- △大粒の雨やひょうが降りだしたら建物内へ避難する

- △雨の日に周囲より低い位置にいる場合は、高い場所へ移動する
- △川の水かさが増したり、濁ってきたらすぐに避難する
- △川の近くでは警告のサイレン音がしたらすぐに避難する



8月1日から

救急支援出場時の消防自動車のサイレン音が変わります

問合せ 高萩市消防本部 高萩消防署
機械・通信指令グループ ☎ 22-0119

高萩市消防本部では、平成 26 年 8 月 1 日（金）から消防自動車のサイレンの音を出場内容によって使い分けて出場します。

救急支援出場時 「ピーポー ピーポー」

救急現場で消防隊員の応援が必要な時に消防車が救急車と同じサイレン音で出場します。交差点への進入時には、安全確保のため「ウ〜ウ〜」音を鳴らす場合があります。



※救急車は今までどおり「ピーポー」です。

●火災出場時・・・「ウ〜カンカンカン」

従来どおり、消防車がサイレン音と警鐘を鳴らし出場します。



●救助・災害出場時

（火災・救急支援以外）・・・「ウ〜ウ〜」

従来どおり、消防車が交通事故現場や災害現場にサイレン音を鳴らし出場します。



熱中症予防をしましょう

問合せ 高萩消防署 警防／救急救助グループ
☎22-0119

熱中症は、スポーツ活動中や作業中、屋内外問わず起こるものや、高温多湿下で起こるものがあり、体内の水分や塩分（ナトリウムなど）のバランス異常や、体温調整機能が崩れたりして発症します。

特に、乳児や小児、高齢者は体内の水分バランスが崩れやすく、こまめに水分補給をすることが必要となりますので周囲が注意深く見守りましょう。

■熱中症予防

【水分補給】 喉が渇く前に、こまめに水分補給をしましょう。※アルコールは脱水を助長します。

【暑さを避ける】 通気性の良い衣類を着用し、外出時は日傘や帽子などを利用しましょう。

【幼児には注意】 晴天の日には地面に近いほど気温が高くなります。大人が暑いと感じた時、幼児はさらに高温環境にいることとなります。外出は、涼しい時間帯を選び、こまめに水分補給に心掛けましょう。

【お互いに配慮を】 集団で活動する場合には、お互いの配慮や注意が必要です。暑さが避けられない運動や作業は、短時間にするか交代しながら個人の負担を軽減しましょう。

■熱中症の症状と対処方法

